

「夢が叶った。親子で予備自訓練！」

神奈川地方協力本部（本部長 高田 充一海佐）は、10月10日（金）から14日（火）の間、武山駐屯地で行われた予備自衛官招集訓練（第117教育大隊）を支援した。

今年には予備自衛官制度創設60周年を迎えるが、本訓練では節目の年に相応しく、佐々木美幸予備2曹と佐々木綾子予備士長の母娘参加が実現した。

佐々木予備2曹は平成24年4月に即応予備自衛官を退職後、3回目の訓練であり、佐々木予備士長は平成25年12月に任期付自衛官を退職後、初めての訓練であった。

「射撃予習」では母がコーチとなり娘へアドバイスする場面も見られ、予備自衛官の先輩として後輩の育成に取り組んでいる姿が印象的であった。

訓練を終え、佐々木予備2曹は「また一つ夢が叶った。1つ目の夢は娘が自衛隊に入隊してくれたこと。2つ目は私と同じ通信科になってくれたこと。そして3つ目の夢は娘と訓練に参加すること」と語り、また、佐々木予備士長は「迷彩服を着た母は普段より生き生きしていた。点呼報告の際、一瞬にしてスイッチが切り替わる姿を見て、母の違った一面を見ることができた。また来年も一緒に参加したい」と語っていた。

神奈川地本は「今後も引き続き予備自衛官訓練を通じて身上把握に努め、招集訓練の魅力を高め、より一層の充実を図る」としている。



芥川龍之介が英語教官 第2術科学校研修に大満足

神奈川地方協力本部川崎出張所（所長 荒木3陸佐）は、10月15日（水）、川崎市空調衛生工業会の海上自衛隊第2術科学校研修を支援した。

この研修は、「川崎市の企業主に、自衛隊への理解と関心を深めて頂く」という狙いで行われた。

海軍機関術資料室と海上自衛隊創設史料室の研修では、海軍の歴史や海上自衛隊の創設に関する説明を受け、熱心に耳を傾けていた。特に、「芥川龍之介」が英語教官だったという話に驚いていた。

内燃実習場では、磁力に反応しない素材で製造された掃海艇用実習エンジンに「これはすごい」と感心し、最も旧式の実習用エンジン取り扱い説明書の「叩けば直ることもある」という記述には笑いも起きていた。

研修を終えた参加者からは、「短い時間だったが充実した内容だった」「史料室の展示品は、すばらしかった。もっと研修したかった」等の感想が寄せられ、大満足の様子であった。

川崎出張所は、「今後も、積極的に研修を支援して、県所在部隊の歴史等について広報していく」としている。



海軍機関術参考資料室